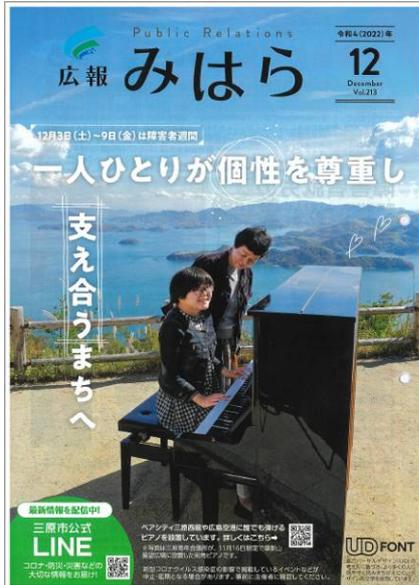


写真部門・一枚写真の部

最優秀賞

三原市 『広報みはら』 (令和4年12月号 表紙)



■担当課:経営企画部 広報戦略課

■連絡先:0848-67-6007

【担当者より(掲載意図)】

三原青年会議所が「三原の魅力を音楽に乗せて伝える」をテーマに「街角ピアノ」の設置企画に合わせて撮影。筆影山の展望広場からみえる、「多島美」と「ピアノ」の異色の組み合わせはインパクトのある写真になると考えました。演奏者には12月の障害者週間にあわせて掲載した特集との連動を意識し、ピアノ演奏が得意な障害のある女性と、その母親に出演してもらいました。

＝講評＝

○瀬戸内の多島美の絶景が見渡せる場所にピアノを設置したアイデアが面白い。親子のやさしいハーモニーが画面から聞こえてきそうなよいビジュアル。

○良い表情を捉えていることや、露出、絞りも的確。

○難しいテーマにも関わらず、三原らしさとテーマが上手に表現されている。2人の女性の表情や雰囲気も良い。

○海、空の美しさを邪魔しないようにコピーが配置されているのが良い。

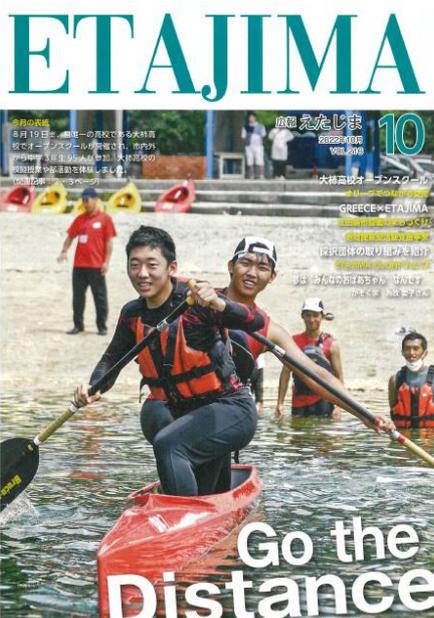
優秀賞

江田島市 『広報えたじま』

(令和4年10月号 表紙)

■担当課:企画部企画振興課

■連絡先:0823-43-1630



【担当者より(掲載意図)】

大柿高校は、江田島市で唯一の高校。毎年行われているオープンスクールでは、市内外から多くの中学3年生が参加しており、模擬授業や部活動体験で高校の雰囲気を肌で感じています。体験の一つであるカヌーは、大柿高校ならではのアクティビティ。江田島市の持つ魅力を授業で楽しむ生徒の笑顔にスポットを当て、島での高校生活の良さを感じとってもらえるような表紙にしたいと考えました。

＝講評＝

○学生の楽しそうな表情と後ろのスタッフの雰囲気がうまく表現されていて気持ちが良い写真。

○海の方からでないこの写真は撮れないので、よく撮られたな、と思う。メインとなる二人の表情もよく、次からの特集を読みたくなる。

○後ろのスタッフの表情を出そうとしてボカシ過ぎてないのであれば、考えて撮っている所の表現はすごく良いと感じる。

○写真の説明と次への導入、内容の簡単な紹介など、最も優れている。

写真部門・組み写真の部

最優秀賞

江田島市『広報えたじま』（令和4年8月号 表紙）

- 担当課：企画部企画振興課
- 連絡先：0823-43-1630



【担当者より(掲載意図)】

江田島市は、自然に恵まれ、アクティビティを楽しめる島。環境スポーツイベント「江田島 SEA TO SUMMIT2022」での、カヤック、自転車、ハイクの様子を組み写真に採用しました。参加者の楽しむ姿を見て、市内の方には、改めて自然に恵まれた島ということを感じてもらい、市外の方には、「楽しそうなので行ってみたい」と感じてもらえるような表紙にしたいと考えました。

＝講評＝

- 本気のレースではなく、あくまで楽しむスポーツイベントだとしたら、みんなの笑顔写真を使う事で「自分でも参加できそう」と思わせるセレクトは狙い通りだと感じた。
- とにかくそれぞれの表情を捉え、シャッターチャンスを逃さないのは技術力がある証拠。
- 横位置の写真を縦に3つ重ねているが、それぞれの写真のトーンが合っているので、まるで一枚の写真のようにも受け取られ、うまいレイアウトになっている。写真の説明が入っているのも良い。
- 紙面タイトルを人物の後ろに配置したり、トリミングなども工夫されている。

優秀賞

庄原市『広報しょうばら』（令和4年7月号 12～13 ページ）

- 担当課：行政管理課
- 連絡先：0824-73-1159



【担当者より(掲載意図)】

庄原市で4年に1度開催されている国指定重要無形民俗文化財「塩原の大山供養田植」と広島県無形民族文化財「比和牛供養田植」の様子をカメラで追いました。どちらも伝統催事ですが、実際にどのようなことが行われているのか知っている人は多くありません。催事の中で行われているさまざまな行事を広く市民に知ってもらいたいと考え、組み写真として紹介しました。

講評＝

- モノクロながら色彩と声まで響いてきそうなエネルギー溢れる組み写真。構図もそれぞれに工夫されており、組み写真でなくとも（1枚写真でも）完成度の高いものが多い。
- 賑わいが一目でわかるし、迫力ある写真の撮り方も加わりストーリーが見える表現となっていた。
- ちゃんと絞りをコントロールしてキチンと見せる写真と、背景をぼかして印象づける写真と分けて撮影されているのは素晴らしいと思う。
- 文章やキャプション、タイトルの入れ方など、モノクロでもわかりやすい。